

北九州工業高等専門学校		開講年度	平成29年度 (2017年度)		授業科目	ディジタル信号処理	
科目基礎情報							
科目番号	0051		科目区分		専門 / 選択		
授業形態	授業		単位の種別と単位数		学修単位: 2		
開設学科	生産デザイン工学専攻		対象学年		専1		
開設期	前期		週時間数		2		
教科書/教材	「ディジタル信号処理(第2版)」萩原 将文(森北出版)「ディジタル通信の基礎」岡 育生(森北出版)						
担当教員	磯崎 裕臣,松久保 潤						
到達目標							
体系的にディジタル信号処理技術を学習し、その応用としてディジタル通信について学習する。SB①②, SD①②							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安		
連続時間システムと離散時間システム	システムの解析に必要なとなる数学的手法を理解し、複雑な信号解析ができる。		システムの解析に必要なとなる数学的手法を理解し、基本的な信号解析ができる。		システムの解析に必要なとなる数学的手法を理解しておらず、解析できない。		
ディジタルフィルタ	各種ディジタルフィルタの特性を理解し、概要説明・設計ができる。		各種ディジタルフィルタの特性を理解し、基本的な概要説明・設計ができる。		各種ディジタルフィルタの特性を理解しておらず、概要説明・設計ができない。		
ディジタル変調	ディジタル変調技術の原理を理解し、原理・概要を説明できない。		ディジタル変調技術の原理を理解し、概要を説明できる。		ディジタル変調技術の原理を理解しておらず、概要を説明できない。		
学科の到達目標項目との関係							
専攻科課程教育目標、JABEE学習教育到達目標 SB① 共通基礎知識を用いて、専攻分野における設計・製作・評価・改良など生産に関わる専門工学の基礎を理解できる。							
専攻科課程教育目標、JABEE学習教育到達目標 SB② 自主的・継続的な学習を通じて、専門工学の基礎科目に関する問題を解決できる。							
専攻科課程教育目標、JABEE学習教育到達目標 SD① 専攻分野における専門工学の基礎に関する知識と基礎技術を総合し、応用できる。							
専攻科課程教育目標、JABEE学習教育到達目標 SD② 専攻分野の専門性に加え、他分野の知識も学習し、幅広い視野から問題点を把握できる。							
教育方法等							
概要	授業では、フーリエ変換を用いた信号のスペクトル分析、情報通信の基礎知識、ディジタル変調方式、多次元接続方式について解説する。						
授業の進め方・方法	教科書を中心に講義と演習を行う。適宜教科書以外の資料も配布する。						
注意点	連続時間システムの2次遅れ系の周波数特性、z変換の基本的な性質を理解していることを前提とする。授業で扱う内容を教科書で予習しておくこと。学習内容の理解の程度を小テストなどで確認する。						
授業計画							
前期	1stQ	週	授業内容			週ごとの到達目標	
		1週	ガイダンス				
		2週	アナログフィルタおよびディジタルフィルタ			各フィルタのダイナミックレンジ、SN比、経年変化等の特徴を理解し、説明できる。	
		3週	連続時間システム			ラプラス変換、周波数特性を理解し、システムの特性を分析できる。	
		4週	離散時間システム (1)			z変換、インパルス応答を理解し、システムの特性を分析できる。	
		5週	離散時間システム (2)			周波数特性、安定性を用いてシステムの特性を分析できる。	
		6週	IIR型ディジタルフィルタ			IIR型ディジタルフィルタの特性を理解し、インパルス不変や双1次変換を用いた設計ができる。	
		7週	FIR型ディジタルフィルタ			FIR型ディジタルフィルタの特性を理解し、インパルス不変や双1次変換を用いた設計ができる。	
	2ndQ	8週	中間試験				
		9週	量子化と符号化			量子化と符号化の仕組みを理解し、説明できる。	
		10週	符号間干渉とナイキストパルス			符号間干渉とナイキストパルスを理解できる。	
		11週	雑音とパルスの誤り率 (1)			雑音とパルスの誤り率の関係を理解し、送受信信号の誤り率を計算できる。	
		12週	雑音とパルスの誤り率 (2)			雑音とパルスの誤り率の関係を理解し、送受信信号の誤り率を計算できる。	
		13週	ディジタル変調方式 (1)			ディジタル変調方式とアナログ変調方式の違いを理解し、説明できる。	
		14週	ディジタル変調方式 (2)			ASK、PSK、FSKによるディジタル変調方式を理解し、説明できる。	
		15週	ディジタル変調方式 (3)			QAM、QPSKによるディジタル変調方式の特徴を理解し、説明できる。	
16週	期末試験						
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標							
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標			到達レベル	授業週
評価割合							
	試験	レポート・課題	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	70	30	0	0	0	0	100
基礎的能力	0	0	0	0	0	0	0
専門的能力	70	30	0	0	0	0	100
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0